



元気っ子

No 320 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

園庭の桜も咲き始め、春の暖かい陽気の中、令和6年度がスタート致しました。本年度もどうぞよろしくお願い致します。

先月の元気っ子やこれまでのバックナンバーの中でも大学の入試改革について触れる機会がありましたが、今回は横浜市にあります、とある私立中学の入試改革についてです。「コンピテンシー入試」というものなのですが、首都圏の私立中学ではこういった入試を行う学校が増えているそうです。

ここに出てくる英語の「コンピテンシー」ですが、「能力・資格・適正」を意味する単語なのですが、企業では、高い業績を収めている社員に共通して見られる「行動特性」という意味で用いられています。

この横浜市の中学校で行われたコンピテンシー入試は、プレゼンテーションとグループワークの2種類の試験で行われ、それぞれが全く違う行動特性を見ているそうです。

プレゼンテーションについては、①これまで継続して自主的に取り組んできたこと、好きなことで自分の自信につながっていること。②入学後の学校生活で①をどのように活かしていくかを試験官に対してプレゼンするものだそうです。一見、自分のやってきたことを話せばいいのですから簡単そうですが、受験生自身に強い思いがないと試験官には伝わらないでしょうし、自分の考えていることを人にわかりやすく伝えるというスキルも求められるものです。

グループワークについては、与えられた社会課題を示すデータを読み取らせただけで、課題解決のために何ができるかをグループで考え、発表するものだそうです。このような試験だと、グループによって差が出るのではないかと、試験官を驚かせるような課題解決方法を発表することが合格への近道のように感じてしまうかもしれませんが、これらの試験にはもっと大切な観点が潜んでいます。

その観点とは、プレゼンテーション入試は「自分のとんがりを自分の言葉で言語化できるか、そしてそのとんがりを学校生活にどう活かしていくか、自身が社会に貢献できる可能性にも触れながらストーリー化していく力」です。一方、グループワーク入試は「多様な意見を尊重できるか、脱線してもきちんとミッション（目的）に戻って、コラボレーションできるか」です。グループワーク入試は、特に付け焼刃の対策では歯が立ちません。やみくもに発言し、強引にリーダーシップを発揮してもいけませんし、単なる協調性でもいけません。対話がミッション（目的）に沿っているか、軌道修正したり、他の状況を見ながら対話が進むような発言をし、多様性を生かしたチームビルディングが求められるものです。

これからこういった総合型選抜入試は首都圏だけでなく地方にも拡大していくでしょう。そうなったときに直前になって予備校に通って猛勉強して知識を詰め込んだところで歯が立ちません。乳幼児期に基礎がつけられる「資質」を問われるわけですから、子どもが置かれる環境はとても重要になってきます。この中学校の校長先生が、敢えてどんな準備をすれば良いかということで、「普段から親子で社会の課題について会話をする。その時に『逆に全く反対の主張できる?』と質問するといいでしょ」と答えています。要は多様性の中、自分とは正反対の意見を受け入れる力を育てていくことが大切なのだと思います。これらを踏まえて保育環境も常にアップデートしながら令和6年度も頑張って参ります。どうぞ宜しくお願いします。